

GUO YU YING
郭 玉 英

学位の種類 博士（国際文化）
学位記番号 国博 第 130 号
学位授与年月日 平成24年 3 月27日
学位授与の要件 学位規則第 4 条第 1 項該当
研究科・専攻 東北大学大学院国際文化研究科（博士課程後期 3 年の課程）
国際文化交流論専攻
学位論文題目 指示詞の日中韓対照研究
論文審査委員 （主査）
准教授 中 本 武 志 准教授 ナロック ハイコ
教授 宮 本 正 夫
教授 小 野 尚 之
教授 上 原 聡

論文内容の要旨

1. 研究目的

本研究は、日本語・中国語・韓国語の指示詞を研究対象とし、談話モデルを通して一連の談話での指示詞の現場指示用法と文脈指示用法を比較対照したものである。

しばしば指摘されるように、日本語は高文脈言語（High Context Language）であり、話し手は聞き手や周囲の状況、前後の文脈を考慮せずに、敬語やモダリティ、代名詞などを使うことはできない。そのような発話状況や文脈に依存する表現のひとつに、指示詞がある。日本語の指示詞研究は、古くから国語学や日本語学の分野において多大な関心が持たれており、それに関わる論文も多数存在している。しかしその多くが現場指示と文脈指示のいずれかを中心とする研究であり、両用法を統一的に説明しようとする研究はほとんど見られない。本論文では、日本語の指示詞の体系を記述するにあたって、自然で普遍性のある原則や制約を談話モデルと組み合わせることによって、指示詞の用法を細部まで説明することを目的とする。

さらに、このモデルに基づき、日本語と同様の指示体系をなす韓国語、及び異なる指示体系をなす中国語（表 1）との比較対照研究を行い、各言語の相違点を分析し、ダイクシスの特性を探る。

表1 日中韓三言語の指示詞

	日	韓	中
近	コ	이 (i)	这 (zhe)
中	ソ	그 (ku)	—
遠	ア	저 (ce)	那 (na)

2. 理論上の枠組み

指示詞の分析は、伝統的に「現場指示（眼前指示）」と「文脈指示」に分けて行われることが多い。「現場指示」とは、話し手と聞き手が同一場にいるとき、その場に存在する事物を指示する用法であり、「文脈指示」とは、対話や文章、内言・独白などにおいて、自分や相手が発した言語表現を指示の対象にするもので、照応（anaphoric）用法とも呼ばれる。

本論文では、金水・田窪や東郷の談話管理理論を批判的に検討した上で、それらの理論を発展させ、上記の各用法に見られる原理の共通点と相違点を明らかにしたい。また、上の考察に基づいて3項指示詞体系を持つ韓国語と2項指示体系を持つ中国語の特徴との対応関係を検討する。

3. 研究方法

＜理論的な方法＞

日本語・中国語・韓国語という三つの言語を分析対象とすることから、対照言語学的方法を用いる。すなわち、基本となる言語と対象言語を対照することによってその目標言語の特徴を明らかにするという対照分析の手法をとる。まず日本語の指示詞について詳細に検討した上で、これを基本言語とする。ついで、その知見に基づいて対象言語である中国語と韓国語の指示詞を比較する。

＜実証的な方法＞

日中韓指示詞の共通点や相違点を明確に分析するため、用例収集は以下の方法をとる。

- 1) 日中韓の平行・テキスト（文学作品や新聞記事など）
- 2) 自然談話
- 3) 母語話者によるインフォーマント・チェック

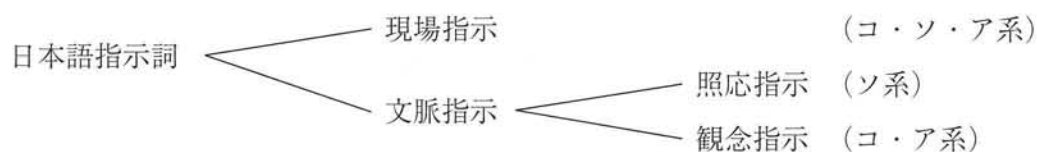
まず、三言語の指示詞の対応関係と相違点を明確に捉えるため、日中韓の平行・テキスト（文学作品や新聞記事など）から基本データを抽出する。しかし、日常の会話で用いられる指示詞と文章語に見られる指示詞では、使われ方にズレが見られることがあるので、母語話者によるインフォーマント・チェックや自然談話の録音などによるデータの分析も行う。

4. 指示詞の分類

日本語の指示詞は、現場指示用法（発話状況に基づいて同定する場合）と文脈指示用法（言語文脈に基づいて同定する場合）に分けられる。さらに、文脈指示用法は照応指示と観念指示に分けられる。前者は文脈領域にある概念化された指示対象を指す。また後者は話し手の知識領域にある主体化された指示対象を指す場合である。

したがって、各章で扱う指示詞用法を整理すると以下のようなになる。

(1) 本研究における日本語の指示詞用法の分類

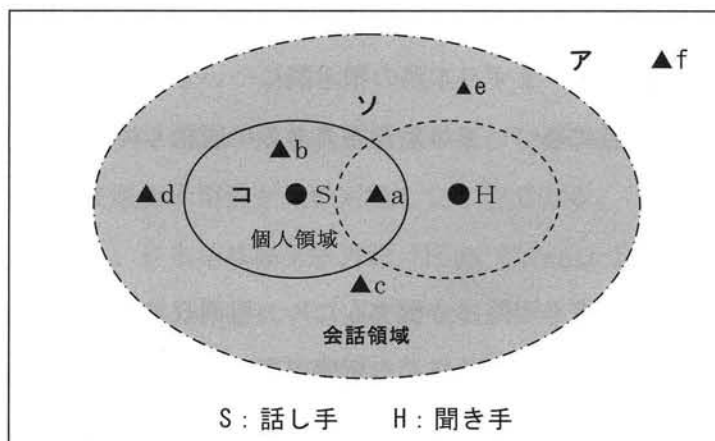


5. 分析結果

5.1 日本語指示詞

5.1.1 現場指示用法

本論文の第3章では、発話状況領域を「個人領域」と「会話領域」に分離することで、日本語指示詞の現場指示用法を次のようにまとめることができた。



- | | |
|-------------|-----------|
| a→両者のコ | b→話し手のコ |
| c→両者（中距離）のソ | d→話し手後ろのソ |
| e→不定のソ | f→両者のア |

図1 日本語指示詞における発話現場の分割

(2) コ：話し手 (S) の個人領域内にある事物を指す

ソ：話し手 (S) と聞き手 (H) を含む会話領域内にある事物を指す

ア：会話領域内から、領域外にある事物を指す

また、個人領域の設定を行う際、物理的距離、コントロール・直接接触、操作可能性、所有関係などの要因に影響されることを示した。

更に、会話領域を設定することで、従来の研究で解決できなかった、話し手の後ろにあるものを指すソや、指示対象が話し手と聞き手の双方から等距離にある「中距離のソ」(3)、あるいは「不定のソ」(4) といった、ソ系指示詞の諸現象の統一的な説明もできた。

(3) (タクシーの客が運転手に)「すみません、**そこ**の角を右に曲がって下さい」

(4)「おでかけですか」

「ええ、ちょっと**そこ**まで」

5.1.2 文脈指示用法

本研究における談話モデルとは、話し手と聞き手の両方の側に、談話の進行に応じて構築される心的領域を指す。本論文の第4章では、この談話モデルを用いて指示詞の文脈指示用法を分析する。談話モデルには、導入された指示対象が登録され探索される領域として、「知識領域」「発話状況領域」「言語文脈領域」の三つがある。「発話状況領域」は現場指示に関わるもので、本章で扱う文脈指示には「知識領域」と「言語文脈領域」が関わる。ここで、談話モデルにおける文脈指示用法を以下のように定義する。

(5) **文脈指示**：話し手が自分の領域 (DM-S) から、指示対象を言語文脈領域に導入し、聞き手の領域 (DM-H) に対応物が形成されたときの指示関係

文脈指示に関わる談話モデルを図示すれば、図2のようになる。下の図2では、「知識領域」と「言語文脈領域」の二つの領域をそれぞれ正方形と楕円形で示した。

なお、各領域に登録される指示対象を A、それに関する様々な情報を a と表記する。またその様々な情報が含まれる指示対象を $A_{(a0,a1,a2,\dots,ai)}$ と表記する。

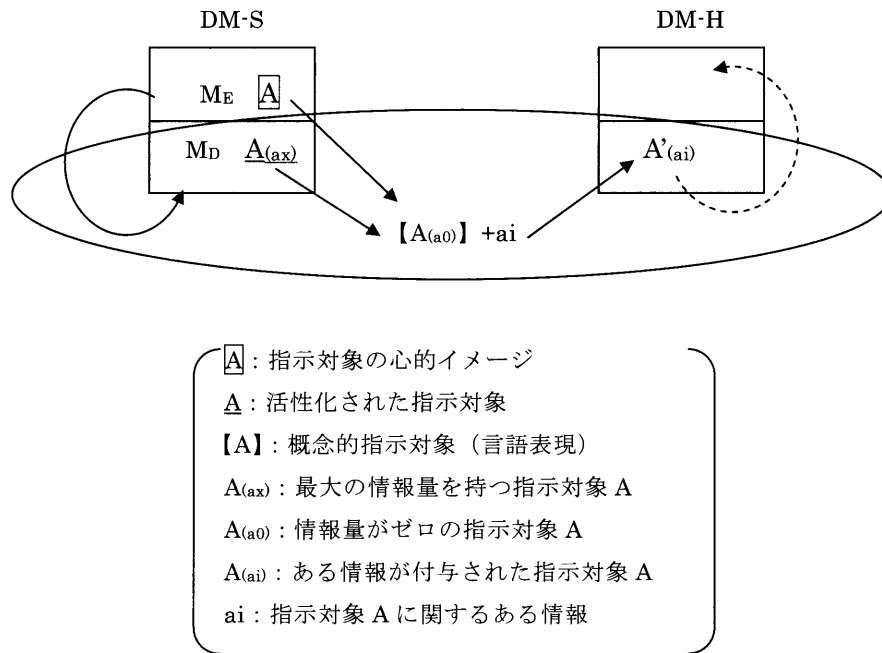


図2 談話モデルにおける文脈指示用法

本章では、文脈指示におけるコソアの用法が以下の通りであることを示した。

- (6) ソ系指示詞は、言語文脈領域に導入されることによって再構成された指示対象をさす。また、ソ系で指示された指示対象は文脈上に限定される。

コ系指示詞は、談話記憶領域にある指示対象をさす。

また、コ系で指示された指示対象は談話記憶領域に限定される。

ア系指示詞は、長期記憶領域にある指示対象をさす。

また、ア系で指示された指示対象は長期記憶領域に限定される。長期記憶領域とは、百科辞典的知識や話し手が実際に経験したエピソード的な記憶が納められる場所である。談話記憶領域と異なり、話し手はその中の知識を編集したり、加工したりすることができない。つまり、言語文脈領域から独立している。

5.1.3 両用法の統合的分析

第5章では、日本語指示詞の現場指示用法と文脈指示用法は以下のように、統合することが可能であることを示した。

コ系指示詞：現場指示では、コ系指示詞は「話し手の個人領域内の事物」を指示する。

一方、文脈指示では、コ系指示詞は「話し手の談話記憶領域内の指示対象」を指示する。

ソ系指示詞：現場指示では、「聞き手領域のソ」と「話し手領域にもない、聞き手の領域にもないソ」の関係を裏返して見れば、「会話領域内」にあるものはすべてソで指すことになる。一方、文脈指示では、ソ系指示詞は「言語文脈領域内」の指示対象を指す。

ア系指示詞：現場指示では、アは「会話領域外」にある事物を指示する。一方、文脈指示では、ア系指示詞は長期記憶にもとづいて同定されている。現場指示においても文脈指示においてもアは「会話領域外」にある対象を指示する。

表 2

	現場指示	文脈指示
コ系	話し手領域内	話し手の談話記憶領域内
ソ系	会話領域内	言語文脈領域内
ア系	会話領域外	言語文脈領域外（話し手の長期記憶領域内）

表 3

コ	話し手領域内
ソ	話し手領域外
ア	会話領域外／言語文脈領域外

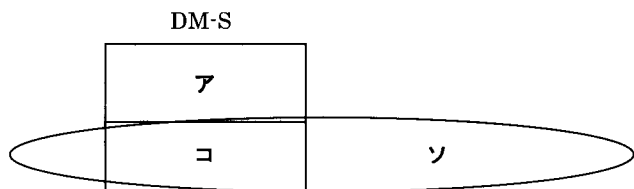


図 3 コ・ソ・アの指示領域

5.2 中国語指示詞

5.2.1 現場指示用法

第 6 章では、中国語指示詞における現場分割を次のように提案する。

1. 日本語とは異なり会話領域はなく、個人領域があるのみ
2. 個人領域は状況によって大きさが異なり、聞き手を含んでも含まなくてもよい

中国語指示詞の現場指示用法は（7）のように纏めることができる。

(7) 这：話し手 (S) の個人領域内にある事物を指す。

那：話し手 (S) の個人領域外にある事物を指す。

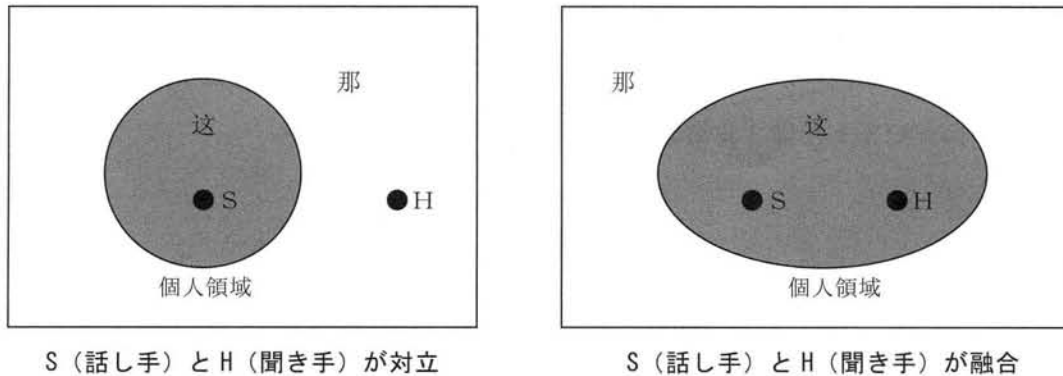


図4 中国語指示詞における発話現場の分割

どの領域にあると判断されるかはさまざまな要因によるが、中国語は日本語と異なり、指示詞を選択する際に聞き手の領域を考慮せず、所有・所属関係、コントロール性（直接接触）・操作可能性、物理的距離（話し手からの主観的距離）、強い関心事などの要因で個人領域が決定される。

ただし、主観的に指示対象との対立を表現する場合、話し手の領域にないものとして遠称の“那”で指すことができる。さらに、その指示対象が聞き手領域にある場合、第二人称と併用し“你那”の形で聞き手との対立を表すことができる。また、話者が指示対象に対して強い関心がある場合、遠いものでも話者の個人領域内に引き寄せて近称の“这”で指し示すことができる。

たとえば(8B)は聞き手Aが指示対象を手にしても、‘这’を使うことができるし、(9B)は自分が持っている対象も、相手の所有物として‘那’で指示することができる。

(8) 【隣席のBさんに読んでいる漫画を指して】

A：这 漫画 特 有 意思， 我 看完了 借 你。

この 漫画 凄い ある 面白い 私 読み終わる -過去 貸す あなた

「この漫画凄く面白いから、読み終わったら貸すよ。」

B：可以 吗？ 太好了。 对了， |(你) 这 / 那| 漫画 是 谁的 作品 啊？

いい 疑問 よい -過去 そう -過去 |(あなた) この / その| 漫画 です 誰の 作品 疑問

「いいの？ やった！ それで、それ、誰の作品なの？」

(9) A：这是 我 最 喜欢的 一件 衣服， 送给 你 当 赔罪 了。

これは 私 最も 好きな 一着 洋服 あげる あなた あたる 謝罪 MOD

「これは私の一番お気に入りの服なんだけど、お詫びにあげる。」

B：算了 吧， 你 那 宝贝 我 可 收不起。
 やめる MOD あなた あの 宝物 私 やはり もらえない
 「だめよ、あなたの宝物はもらえない。」

また日本語と中国語指示詞の共通点は指示詞選択の決め手が認知主体の話し手であることにある。相違点として日本語では、聞き手を含む会話領域があり、発話現場への依存性が高い。一方中国語では、会話領域がなく、発話現場への依存性が相対的に低い。

5.2.2 文脈指示用法

第6章ではさらに談話モデルを用いて、日本と中国語の指示詞の使い分けを検討した。その結果、次の相違が明らかとなった。

(10) “这”：話し手の談話記憶領域にある指示対象を指示する。

“那”：話し手の談話記憶領域以外にある指示対象を指示する。

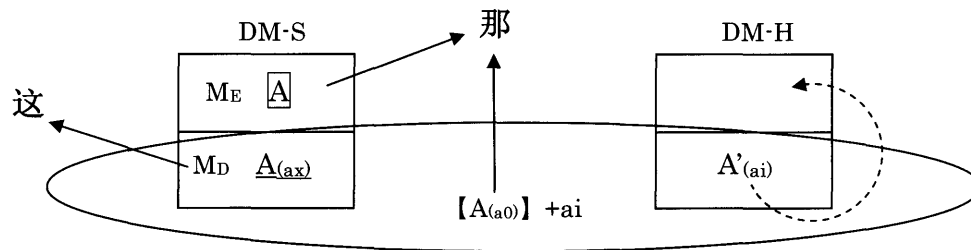


図5 文脈指示用法における中国語指示詞の談話モデル

5.3 韓国語指示詞

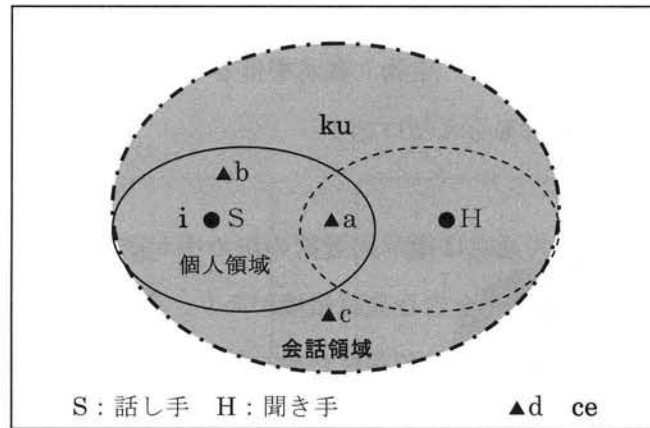
5.3.1 現場指示用法

第7章では、日本語と同様に発話状況領域を「個人領域」と「会話領域」に分離し、現場指示用法を次のようにまとめた。

(11) ㅇ (i)：話し手 (S) の個人領域内にある事物を指す

ㄱ (ku)：話し手 (S) と聞き手 (H) を含む会話領域内にある事物を指す

저 (ce)：会話領域内から、領域外にある事物を指す



注： a→両者の i b→話し手の i
c→両者（中距離）の ku d→両者の ce

図6 韓国語指示詞における発話現場の分割

また、現場指示における日本語と韓国語指示詞の特徴をまとめると図7のようになる。

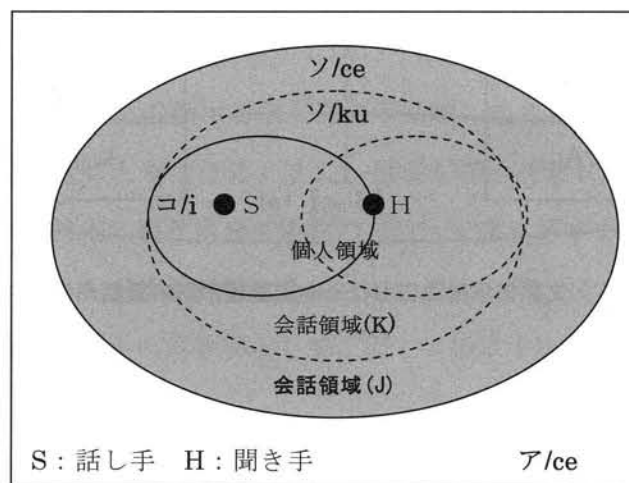


図7 現場指示用法における日韓指示詞の対応関係

韓国語と日本語の指示体系は、かなり類似している。しかし、日本語と異なる点もあり、現場指示用法における使い分けの要因に相異が見られた。

具体的には、まず韓国語では、指示対象は、話し手と聞き手から等距離に位置し、かつ両者から非近で非遠場所に存在しなければ「中距離のコ (ku)」が見られず、指示物が両者よりやや離れたところにあるとき、例文 (12) のように、韓国語は「コ (ku)」ではなく「저 (ce)」が使われること、さらに (13) (14) (15) が示すとおり、「話し手後ろのソ」や「不定のソ」に当たる指示詞が存在しないことから、韓国語は日本語より会話領域が狭いことがわかる。

- (12) a. 乗 客：{そこ／あそこ} の煉瓦色の建物の前で止めてくれ。
 運転手：{そこ／あそこ} の大きな建物ですね？ (正保1981の例文を一部改変)
- b. 乗 客：{*Keki／ceki} pyektolsayk kenmwul aph-ey seywecwe.
 {そこ／あそこ} 煉瓦色 建物 前 - で 止めてくれ
 運転手：{*Keki／ceki} khun kenmwul malipnikka.
 {そこ／あそこ} 大きな 建物 ですね
- (13) 【話し手と聞き手とが、部屋の中で、立ち話をしているとき、話し手が手を後ろへやって、机を指しながら】
- a. その机を、ごらん。(高橋 1956:56)
- b. {Ce/i/*ku} chayksang-ul pwa.
 {あ／こ／*そ} の 机 - を ごらん
- (14) a. 「そこまで出かけよう」と、父は言った。(『挽歌』)
- b. I kunchey nakapoca-ko, apeci-nun malhayssta.
 この 近く - に 出かけよう - と 父 - は 言った
- (15) a. 最近のアイドルの歌手はそのへんにいる女の子と変わらない。(金水 1990)
- b. Choykun inki kaswu-nun ceki-issnun yeca-ai-wa talucianhta.
 最近 アイドル 歌手 - は あそこに - いる 女の - 子 - と 変わらない

また、日本語では発話の場への依存性が高く、物理的距離が優先されるのに対し、韓国語では発話の場への依存性がそれほど高くなく、物理的距離より心理的距離のほうが優先される、という点で対照を成している (16)。さらに日本語と異なり、韓国語では譲渡不可能な所有関係があったとしても、話し手の領域には入らないのが普通である (17)。

- (16) a. サムドリのやつは遠くから様子を窺うばかりでいたところへ、アンヒョプチプを番人が連れて行くのを見ると眼をいからせた。
 「やや、あいつ虎のサムドリを知らぬとみえる。だが一体どういうつもりなんだ？ やつアンヒョプチプに手でもだしてみやがれ！(略)」(『桑の葉』)
- b. Ani inom holangi samtoli -lul molununkesthelem pointa.
 やや こいつ 虎の サムドリ - を 知らぬと みえる
- (17) 【話し手から2メートルくらい離れたところで、話し手の妻が、自分たちのこどもを抱いているとする。その妻に夫が話しかける。】
- a. {この／??その／*あの} 子、おまえとよく似ているね。(金水・田窪1990を改変)

b. {I / ? ? Ku / *Ce} ai tangsin-kwa manhi talm-assney.
 {この／その／あの} 子 おまえ - と よく 似て - いたね。

5.3.2 文脈指示用法

韓国語と日本語の指示詞の文脈指示用法をまとめると表4のようになる。表4では이 (i) 系とコ系を「話し手の談話記憶領域内の指示対象をさす」と規定したが、이 (i) 系の主観性・直示性が強いいため、コ系より指示範囲が狭い。また、저 (ce) 系とア系を「話し手の長期記憶領域内の指示対象をさす」と規定したが、저 (ce) 系が「誰もが必ず知っているはずのこと」でなければ文脈指示で使われないため、ア系より指示範囲が極めて狭い。最後に、그 (ku) 系とソ系を「言語文脈に導入された指示対象をさす」と規定したが、ソ系は言語文脈領域に導入されることによって再構成された指示対象をさすのに対して、그 (ku) 系は情報が言語文脈領域にあることにしてしまう力を持ち、指示対象が言語文脈領域と長期記憶領域両方に存在する場合、言語文脈が優先される。また先行文脈の言語表現をそのまま代行することができる。つまりソ系と比べると指示範囲がより自由で広いと言える。

表4 文脈指示用法における日本語と韓国語

	指示対象が文脈に導入される		
	談話記憶領域	言語文脈領域	長期記憶領域
日本語	コ	ソ	ア
韓国語	이 (i)	그 (ku)	저 (ce)

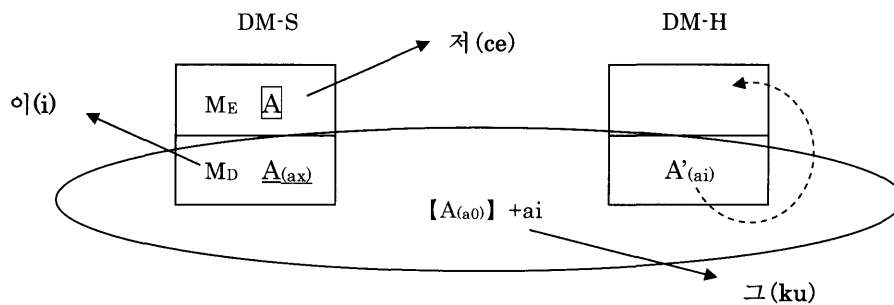


図8 文脈指示用法における韓国語の談話モデル

(18) 그 (ku) 系：言語文脈領域に導入された指示対象をさす

이 (i) 系：話し手の談話記憶領域にある指示対象を主観的・直示的にさす

저 (ce) 系：ほとんどの人の長期記憶領域にある指示対象をさす

表 5

ㅇ (i)	話し手領域内
ㄱ (ku)	話し手領域外
저 (ce)	会話領域外／言語文脈領域外

6. 結論と今後の課題

本研究では、談話モデルによって、従来説明できなかった指示詞の現場指示用法と文脈指示用法を説明することができた。さらに指示詞の選択は話し手による認知的判断の違いによるものと考え、指示詞の現場指示用法と文脈指示用法を統一して一般化することもできた。またこのモデルを用いて日中韓三言語の指示体系の共通点と相違点も明らかにすることが可能となった。

このモデルは指示詞に限らず指示詞表現全般に対しても説明力を持つと考えられる。今後の課題として記述の対象を広げ、理論の検証と洗練を目指したい。また、中国語と韓国語の指示詞では、領域の決定要因に不明な点が残っている。この点も今後の課題としたい。

論文審査の結果の要旨

本論文は日本語・中国語・韓国語の指示詞を研究対象とし、一連の談話における指示詞の現場指示用法と文脈指示用法を比較対照したものである。

日本語の指示詞コ・ソ・アに関する研究は、古くから国語学、日本語学において多大な関心が寄せられており、論文も多数存在している。しかしその多くが用法の分類に終始するか、現場指示と文脈指示のいずれかを中心とする研究であり、両用法を統一的に説明しようとする研究は少ない。本研究では、日本語の指示詞の体系を記述するにあたって、自然で普遍性のある原則や制約を談話モデルと組み合わせることにより、細部まで説明できるような構造を持たせることを第一の目的とし、さらにそのモデルに基づき、日本語と同様の指示体系をなす韓国語、及び異なる指示体系をなす中国語との比較対照研究を行い、各言語の相違点を分析し、ダイクシスの特性を探ることを第二の目的としている。

論文の第一部では先行研究の綿密な検討の後、談話管理理論を発展させた談話モデルを仮定し、指示詞の選択は話し手による個人のスペースと談話のスペースという認知的領域設定によるものとする。ことで、発話の現場に存在する事物を指す現場指示と、言語表現を指示対象とする文脈指示について、これまでの学説では十分に説明できない用例を一貫した理論モデルによって説明することができた。さらに、指示詞の現場指示用法と文脈指示用法の統一的な一般化も可能となった。

第二部では、日本語の分析によって得られた結果を基に、中国語と韓国語の指示詞を対照分析している。まず日本語と中国語の違いを、中国語には個人領域のみを設定することにより、単純かつ明快に記述している。次に日本語と韓国語の違いについては、領域設定が共通していることから原則的な使い方はほぼ同じであるものの、領域の広さなどの違いによって両言語の相違が生じることを、多くの用例を用いて説得的に論じている。

直感的でやや性急な論述も散見され、一部に複雑な記述も余儀なくされているが、先行研究の成果を十分に生かしつつ、独自の理論モデルを打ち立て、新たに掘り起こされた事実や観察も非常に興味深い。理論とデータの双方に新知見が多く、その成果は論文提出者が自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力と学識を有することを示すものである。よって、本論文は、博士（国際文化）の学位論文として合格と認める。